

第 4 学年次 CBT・Pre-CC OSCE

【責任者】

教務部長

全国共用試験とは医学生が診療参加型臨床実習(クリニカルクラークシップ)を行う上で欠かすことのできない態度、技能、知識をもっているかについて評価するものである。令和 3 年の医師法改正によって令和 5 年(2023 年)4 月から全国共用試験を合格した Student Doctor が医業を行えるようになった。

すなわち、診療参加型臨床実習を行うにあたり、患者さんの安全確保、皆さんの学修状況などを担保する公的な試験であり、極めて厳密に運営され、不正行為は留年など厳しく処罰される。

この試験は知識と問題解決能力を評価する CBT(Computer-Based Testing)と態度・技能を評価する Pre-CC OSCE(Pre-Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination)の 2 種類から成り立っている。本学ではこの両方に合格しなければ進級できない。なお、第 4 学年次の進級要件は各科目の合格に加えて、この全国共用試験、本学独自の総合進級試験(病態生理試験)にすべて合格することである。詳細についてはプレクリニカル教育において説明、掲示予定である。この試験は医学生として適切な行動をできるかという適性(Fitness to Practice)を測るものである。従って医学生に相応しくない行動をした場合には、受験を認めない。なお、全国共用試験を合格し、診療参加型臨床実習(クリニカルクラークシップ)に臨む学生は、Student Doctor としての責任を十分に自覚し真摯な態度で実習に臨み、患者貢献を行うこと。

CBT について

- ・ CBT は、臨床実習開始前までに修得しておくべき必要不可欠な医学的知識を総合的に理解しているかどうか、また問題解決能力を評価する試験である。
- ・ CBT の試験問題は、モデル・コア・カリキュラムの項目と内容に準拠して出題される。
- ・ CBT は、コンピューターを用いて問題プールから受験生ごとに異なる問題がランダムに出題される。ただし、ランダムに出題されても受験生ごとの平均難易度に差がないように調整される。平均難易度については、既に受験生ごとの出題問題セット間の差が極めて小さいことが明らかとなっており、さらに出題問題の組合せ段階で難易度に差がないよう調整される。また、統計処理法(項目反応理論 Item response theory: IRT)に基づいて難易度の検討を行い、不公平がないように調整される。
- ・ 基本的には 1 日間で実施する。(共用試験実施評価機構が定めた PC の予備台数等の制限上、学生数によっては予備日を使用して 2 日間での開催に変更する可能性がある。)
- ・ 携帯・スマートフォン・PC などの外部との通信可能な機器の持ち込みは厳禁である。これらの機器持ち込みが発覚した場合は、不正行為とみなして不合格とする。また計時機能のみであ

っても時計の持ち込みは禁止である。筆記用具の持ち込み、試験問題の復元なども固く禁ずる。

- ・ アクセサリー類の持ち込みは厳禁である。持ち込むことのできる物品・身だしなみに関する詳細は試験前に通知する。
- ・ 事前体験テスト、模擬試験は必ず受けること。模擬試験の著しい低得点は受験を認めない。

日程(予定である。変更の可能性あり)

模擬試験: 7月24日(金)、8月21日(金)

事前体験テスト: 9月15日(火)

本試験: 9月29日(火)、9月30日(水)*

再試験: 12月2日(水)

※本試験 9月30日(水)は予備日。

Pre-CC OSCE について

・ 課題について

共用試験実施評価機構で作成された共通課題で行う。医療面接、頭頸部、胸部、全身状態とバイタルサイン、腹部、神経、基本的臨床手技、救急の8課題の予定である。場合によって変更・追加する場合もある。

1つの課題の実技の制限時間は医療面接10分、その他は5分間の予定である。課題の内容については非公開。課題や評価基準や評価方法など内容を他人に教えたり、聞き出したりする行為、携帯電話・メールによる情報交換は不正行為として処罰される。

携帯・スマートフォン・PCなどの外部との通信可能な機器の持ち込みは厳禁である(計時機能のみの時計も不可)。待機場所入室時、待機中、試験中にこれらの機器持ち込みが発覚した場合は、不正行為とみなして不合格とする。

共用試験の内容を含め臨床実習に臨む準備の教育として「プレクリニカル教育」を実施する。これは特別講義も含め原則として皆勤を義務付ける。

身だしなみを整えることは共用試験受験において最低限の条件である。以下の注意事項を、プレクリニカル教育を含め遵守すること。

・ 注意

課題の内容は厳格な守秘義務があり、不合格者に対してどこが悪かったのかを伝えることは、課題の内容に抵触するため、共用試験実施評価機構よりフィードバックは禁止されている。繰り返すが、課題内容を友人や後輩に伝えることは課題漏洩なのでもちろん禁止である。課題内容を再現する等もってのほかであり、関わった学生は不合格だけでなく、懲罰の対象となる可能性がある。

日程、場所(予定である。変更の可能性あり)

本試験:10月10日(土) 本学施設内にて実施。

再試験:11月15日(日) 他大学にて実施。(主催は共用試験実施評価機構)

身だしなみの注意

学生は、患者さんを診察するのに相応しい服装、髪型、履物を身につける。判断の基準は、患者さんの立場にたつて、不審、不快でないと思われること。不適切な学生は参加させない。

〈白衣(ケーシー)、名札〉

- ・こまめに洗濯し、交換すること。しわ、汚れやしみのあるもの、破れたものは着用しない。
- ・ずり落ちたズボンなどサイズの合わないものは着用しない。裾上げ等を必ず事前に行うこと。
- ・半袖ケーシーの襟や袖からアンダーシャツ、長袖を出さない。厚手の下着等で調節すること。
- ・肌、下着、Tシャツ等の柄などが白衣やケーシーから透けてはならない。
- ・名札は必ず着用し、胸の位置につける。首からかけるタイプは不可。

〈履物〉

- ・白色の運動靴、上履きを着用(サンダル、スリッパ、下駄、合成樹脂性の履物は不可)。
- ・靴下は必ず着用し、白色を原則とする。くるぶしが十分隠れるものを着用すること。

〈頭髪〉

- ・感染予防の観点から白衣に付着させない。
- ・寝癖や乱れを整える。
- ・茶髪の染髪、染髪を隠す黒彩は不可。
- ・女子で白衣にかかる場合は髪をまとめ、ポニーテールではなくお団子にすること。まとまりにくい場合はヘアピンやネット等を使用し、髪が飛び出さないようにする。
- ・男子は髪が襟にかからないこと。(後ろでまとめるのは禁止)
- ・男女とも長い前髪は不可。

〈その他禁止事項〉

- ・ペインティングした爪
- ・アクセサリ、過度の化粧や香水
- ・カラーコンタクト
- ・刺青、タトゥー
- ・すべての種類のひげ、長いもみあげ
- ・喫煙
- ・白衣での外出など

〈マスクについて〉

- ・マスクは白色で一定の性能を有するマスク(不織布製)を着用すること。

- ・ 評価

CBT の合格基準は IRT を用いて定め、また Pre-CC OSCE は全領域に合格することが求められる。

- ・ 4 年次特別補習カリキュラム

上記全国共用試験を不合格になった学生に対しては、残りの年度内に特別補習カリキュラムを課す。これは、次年度での成績の大幅向上を果たすために臨床実習の代替として実施するものである。該当学生は真摯な姿勢で取り組むこと。不参加、態度不良は次年度の進級における教育的配慮を取り消す場合がある。詳細は別途提示する。